

週報①

広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況(腸管病原菌含)

検出菌 ウイルス	2020年												2021年													
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月 ~7日	11月 ~14日	11月 ~21日	11月 ~28日
カンピロバクター	42	46	55	54	92	177	241	189	97	132	148	125	114	65	137	114	169	115	122	85	45	63	11	22	20 (25)	26
病原性大腸菌	22	34	39	30	24	63	60	76	52	42	41	52	39	25	52	61	55	64	63	45	42	102	19	12	6 (15)	15
腸管出血性大腸菌	1	0	0	0	1	4	0	2	1	2	0	0	1	0	0	0	1	2	3	2	0	3	0	0	1	1
サルモネラ	4	1	2	4	10	7	14	29	16	10	10	3	6	5	3	1	5	8	10	23	9	25	2	2	2	1
黄色ブドウ球菌 MSSA	6	20	11	3	9	15	15	20	13	17	18	12	14	16	33	19	39	25	17	15	20	26	4	5	0 (4)	8
黄色ブドウ球菌 MRSA	10	11	17	8	14	14	11	17	9	10	11	9	10	10	15	25	31	13	14	19	10	18	0	3	1 (2)	3
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	1	1	0	0	7	0	0	0	0	2	1	3	4	4	0	4	5	3	0	2	0 (1)	0
ロタウイルス	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	1	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
ノロウイルス	10	14	6	1	0	0	0	2	0	0	0	1	4	5	6	11	13	9	0	0	0	0	0	0	0	0

* ()は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。
* 先週のその他の1件増はアエロモナスでした。

週報②

広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報

令和3年第47週(11月22~11月28日)

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	5	結核	5	1	1			2		1
三類	2	腸管出血性大腸菌感染症	2							2
四類	2	つつが虫病	1					1		
		レジオネラ症	1			1				
五類	8	ウイルス性肝炎	1					1		
		カルバペネム耐性腸内細菌感染症	2					1	1	
		後天性免疫不全症候群	1					1		
		梅毒	4					2		2
新型インフルエンザ 等感染症	21	新型コロナウイルス感染症	21	0	1	0	0	0	0	20

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市 西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町 北 部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

新型コロナウイルス感染症

第47週は新規感染者の報告はありませんでした。現在、感染状況は昨年6月以来の低い水準となっていますが、県東部の小学校において児童のクラスターが報告されています。

国内では、11月30日に新たな変異株であるオミクロン株の感染者が空港検疫で確認されました。オミクロン株は、多くの変異を有しており、感染・伝播性の増加や既存のワクチン効果の低下等が懸念されています。現在、国立感染症研究所では、公衆衛生への影響が最も大きい「懸念される変異株(VOC)」に位置づけ、監視体制を強化しています。症状の重篤度など詳細はまだ分かっていませんが、南アフリカなど海外では報告が相次いでおり、今後の発生動向に注意が必要です。

感染状況は現在落ち着いていますが、この状態を維持するため、基本的な感染防止対策を徹底しましょう。

基本的な感染防止対策の徹底を！

- ・「3密の回避」(密閉・密集・密接)
- ・体調不良時の早期受診
- ・マスク着用(特に会話の時)
- ・換気
- ・手洗い



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間平均(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間平均(注)	発生記号	急増減		前週と比較しておおむね1:2以上の増減
												急増	急減	
小児科	インフルエンザ	-	-	1.45		小児科	流行性耳下腺炎	-	-	0.09		急増	急減	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
	咽頭結膜熱	3	0.13	0.34		眼科	RSウイルス感染症	1	0.04	0.27		急増	急減	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	12	0.50	2.17			急性出血性結膜炎	-	-	0.08		急増	急減	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
	感染性胃腸炎	82	3.42	7.59	⇒		流行性角結膜炎	2	0.25	0.33		急増	急減	ほとんど増減なし
	水痘	1	0.04	0.40		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-		急増	急減	
	手足口病	53	2.21	0.59	⇒		無菌性髄膜炎	-	-	-		急増	急減	
	伝染性紅斑	-	-	0.19			マイコプラズマ肺炎	-	-	0.23		急増	急減	
	突発性発しん	6	0.25	0.30			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-		急増	急減	
	ヘルパンギーナ	6	0.25	0.11	⇓		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-		急増	急減	

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	2	93	70歳代・80歳代
4	つつが虫病	1	5	80歳代・市外
5	ウイルス性肝炎	1	6	30歳代・B型
5	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	10	40歳代
5	後天性免疫不全症候群	1	7	20歳代・感染者
5	梅毒	2	95	40歳代・2人

■新たに判明した病原体検出状況

(検査：広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	発症年月日	検査材料	検出病原体
感染性胃腸炎	発熱(38.0℃) 嘔吐 下痢	2	2021/10/24	糞便	アストロウイルス
流行性角結膜炎	結膜炎 結膜充血	35	2021/09/25	結膜擦過物	ア7ウイルス64型
無菌性髄膜炎	発熱(38.7℃) 髄膜炎 嘔吐 項部硬直 頭痛	7	2021/08/18	髄液	エコーウイルス6型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載